

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 418

事務事業名	国道34号等拡幅整備促進事業
-------	----------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	都市整備部		
課名	都市計画課		
課長名	桑原 盛雄	内線	430
担当者名	川口 勇太郎	内線	431

基本目標	050201	機能的で環境と調和したまち
政策		道路網の整備と公共交通の利便性の向上
施策		道路網の整備
関連施策		

会計	一般会計		
款	8	土木費	
項	5	都市計画費	
目	1	都市計画総務費	
事業コード	040000	国道34号等整備促進事業	

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	大村市内幹線道路		
意図 対象をどのような状態にしたいか	国、県等の関係機関に対して要望活動を行うことにより、国道34号及び都市計画道路等の整備促進を図る。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	市、市議会、商工会議所等の12団体を会員として、「国道34号等大村市内幹線道路整備促進期成会」を組織する。会員からの負担金を拠出し、県及び国土交通省に対し、市内幹線道路の整備促進・早期完成について要望活動を実施する。 特に、国道34号大村-諫早間は4車線化への事業を強力に推進するため、大村・諫早両市、15団体で「国道34号大村・諫早間整備促進期成会」を組織する。両市で負担金を拠出し、国土交通省に対し、官民一体となって強力な要望活動を実施する。		
事業期間	年度 ~ 平成	年度	実施方法 直営
根拠法令、要綱等			
国・県補助事業に係る本市単独施策			

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 長崎県・国土交通省への要望回数	計画値	4	5	8	8	
		実績値	4	8	7		
	達成度	%	100.0%	160.0%	87.5%		
成果指標	① 国道34号拡幅整備延長	計画値	4	4	8	8	
		実績値	3	3	3		
	達成度	%	86.5%	86.5%	41.6%		
② 池田沖田線整備延長	計画値	3	3	3	3		
	実績値	0	1	1			
	達成度	%	0.0%	41.2%	41.2%		

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	600	2,035	2,031	2,650	2,752	2,752	2,752	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	600	2,035	2,031	2,650	2,752	2,752	2,752	
② 人件費(千円)	5,031	6,245	4,496	4,749	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.62	0.71	0.56	0.62	国土交通省をはじめとする要望活動の実施	国土交通省をはじめとする要望活動の実施	国土交通省をはじめとする要望活動の実施	
時間外勤務(時間)	52	440	273	120				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	5,631	8,280	6,527	7,399				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	H27年度は、例年同様に、長崎県選出国會議員、国土交通省(本省、九州地方整備局、長崎河川国道事務所)、長崎県へ要望活動を行った。特に、国道34号大村-諫早間については、新規事業化に向けて、県との合同要望を実施した。 国土交通副大臣から国道34号大村-諫早間について、平成27年9月に「計画段階評価」の手続きである「第2回九州地方小委員会」を開催し、概略ルート案が提示され、早期事業化に向けて大きく前進した。
事業が抱える問題・課題等	大村・諫早間約4Kmの計画段階評価の道路調査を効率よく国が進める上で、必要と考えられる情報収集や住民・関係者などの調整に積極的に協力し、早期事業化へ向けた取り組みを進める必要がある。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	国道34号は、県央地域の産業振興、地域活動の中核となる主要幹線道路である。今日、慢性的な渋滞が発生している国道34号(大村-諫早間)は、一日も早い安全な交通環境の整備が求められているため、積極的な要望活動は重要かつ必要なものである。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	幹線道路の整備は市の重要課題の一つであり、市の関与が必要不可欠である。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	全国的に道路事業費が縮小・削減されている中で、市内の幹線道路改良工事は、目標年度完成へ向けた事業予算が計上されており、事業の進捗がみられる。						
負担割合	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	要望活動は、目標達成の手段として極めて有効である。						
コスト	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	国道34号大村拡幅整備は約9割が完成し、残り区間(空港南口交差点から水主町交差点)の用地買収へ取組が進められ、都市計画道路池田沖田線や木場スマートインターチェンジの整備促進に向けて取り組んでいる。特に、国道34号大村-諫早間は、県央都市圏における交通ネットワークの重要な幹線道路で、県央地域の発展に貢献することから、さらなる要望活動を展開していくため、要望活動費の削減はできない。(平成24年度から200千円削減)						
負担割合	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	「国道34号等大村市内幹線道路整備促進期成会」は、市内幹線道路の整備を強力に推進するために、市議会など13団体で組織している。また、「国道34号大村・諫早間整備促進期成会」は、国道34号大村-諫早間の4車線化拡幅を実現するために、大村・諫早両市・13団体で組織し、官民一体となって要望活動に取り組んでいる。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入していません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	地域一丸となった取組みを発展させなければならないことから、住民へのPRが必要である。目に見える形で事業成果が上がってきており、引き続き事業を継続したい。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	大村～諫早間の移動時間が短縮され、地域間の交流が促進される。諫早・島原方面から、第三次医療施設への移動がスムーズとなり、救命救急活動の支援に繋がる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。